令和７年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立岐阜盲学校

学校番号	101

自己評価

学校教育目標	・障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し、互いに助け合い、明朗で、たくましく生きる力を身につけ、社会に貢献できる児童生徒を育成する。

評価する領域・分野	生活相談部「生徒指導（教育相談）」
現状及びアンケートの結果分析等	・「学校の先生は、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」 生徒を対象とするアンケートで、「よくあてはまる」78%、「わからない」22%という結果であった。当校の特徴として児童生徒数が少ないため 1 人でも回答があると全体に占める割合が高くなることが挙げられ、その影響が考えられる。また、当校は幸いなことにいじめ等の報告は挙がっておらず、実際に対応する機会を見聞きする機会も無いことから、どのような対応を取られるか知らない生徒もいるのではないかと考えられる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・「いじめは、どの子にも起こりえる」という認識を強くもち、全教職員が、いじめを許さない姿勢で、どんな些細なことでも親身になって相談に応じる。このことが、いじめの発生・深刻化を防ぎ、いじめを許さない児童等の意識を育成することになると考える。 ・喧嘩やふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断する。
重点目標を達成するための校内組織体制	・いじめ対策委員会を年２回実施。 ・心のアンケートや教育相談の定期的実施及び SC の活用。
目標の達成に必要な具体的取組	・当校でもいじめが報告された際は、いじめ対策委員会で事例について検討する等、所定の流れが確立されている。また、職員研修も定期的に行っており、学校全体でいじめを許さないマインドを共有している。そのような具体的な活動について児童生徒保護者にも共有していくことで理解を図っていきたい。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・児童生徒の様子や各種アンケートの結果及び過年度との比較。 ・必要に応じて迅速な対応や情報共有、関係機関との連携ができたか。
取組状況・実践内容等	・年度当初に職員研修としていじめの定義確認と発生時の対応について確認した。 ・定期的ないじめ対策委員会や各種アンケートの実施。 ・学期末終業式での児童生徒への啓発。

評価の視点	評価
①　教職員がいじめの定義や予防、発生時の対応について理解しているか。	[A]　B　C　D
②　いじめ発生時に委員会の開催や関係機関との連携が速やかに行われるよう組織されているか。	[A]　B　C　D

成果・課題	総合評価
○研修を通して教職員にいじめについての啓発を行った。 ○定期的にいじめ対策委員会やアンケートを行った。 ▲いじめ事案発生時の具体的な対応について全職員で共通理解できるとよい。	[A]　B　C　D

来年度に向けての改善方策案	・職員間でいじめの定義や対応について研修等を通して共通理解を図る。 ・いじめが報告された際は速やかにいじめ対策委員会を開催する。 ・いじめ発生時の対応について児童生徒保護者とも共有して理解を図る。

学校関係者評価　（令和７年６月３０日、同年１１月１日、令和８年１月２８日実施）

意見・要望・評価等

・学校は、人間性・基礎能力・ものの考え方などを学び、大人になるまでのステップを踏んでいく大切な場であり、様々な場面で適切な支援がされていることが分かった。